



凍害・ナシマルカイガラ・腐らん病の予防に努めよう！

今年は1月以降、暖冬小雪傾向が続き、積雪は2月29日現在の和徳で15cm（昨年75cm）、藤崎で15cm（昨年80cm）とかなり少なく推移しています。このような気象の年は、わい化樹や若木（苗木）を中心に凍害の危険性が高まるので、今後の予報に十分注意し被害を未然に防ぐよう対策を講じましょう。

また、雪解けが早い年は生態が進む傾向にあり、1回目薬剤散布が早まる事が予想されます。剪定作業は計画的に行い、薬剤散布にも柔軟に対応できるように備えましょう。近年被害が増えつつあるナシマルカイガラムシへの発芽前散布は生態が早まる事も考慮し、散布遅れにならないよう注意しましょう！

◆凍害にしやすい気象条件

- ①暖冬少雪や春先の急激な雪解けによって樹体に強い日射を受けることで発生する。
- ②早い時期から樹皮温度が上昇し、耐凍性が低下した後、低温に遭遇することで発生する。



90cm程度の高さまで塗布しましょう！

【対策資材】

名称	処理方法
ホワイトペースト（3kg）	原液もしくは1.5倍希釈で使用。散布の場合は1.5倍～2倍希釈で使用。
ホワイトパウダー（2kg）	水6Lに対して1袋使用する。散布の場合は水20Lに対して1袋使用する。

◆ナシマルカイガラムシ対策

昨年、りんごに「赤いリング状の斑点」が見られた方は、寄生された枝があるはず！下記を参考に対策しましょう。

○被害枝の特徴

寄生された枝は、表面がガサガサし赤紫色に変色しています。放置して多数の寄生を受けた場合は、生育が止まりやがて枯死します。昨年被害が見られた樹では、注意深く観察し、剪定時に切り取り処分しましょう。

★被害が多かった園地では、下記の薬剤で対策を★

散布時期	散布薬剤	倍数	1000ℓ当たり
発芽前(※)	マシン油（乳）	50倍	20ℓ
展葉1週間頃	アプロード（F）	1000倍	2本（1ℓ）

被害が多かった園地では、どちらか1剤ではなく、2剤とも散布しましょう！（アプロードは展葉1週間後散布に加用）

(※)管内前年発芽日(ふじ)3月26日

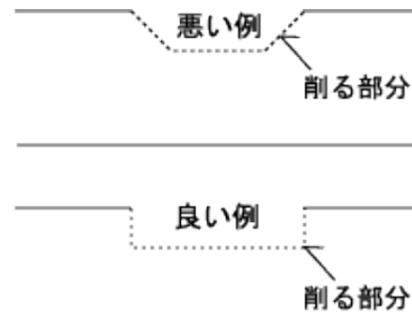
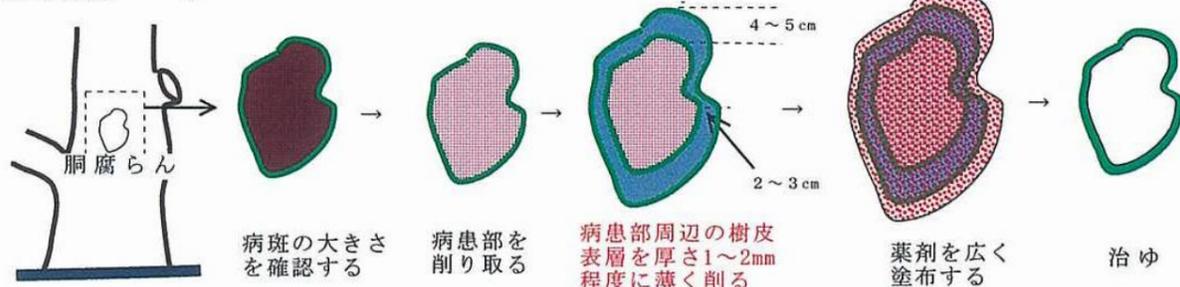
◆腐らん病対策

- ・近年発生量が多い事から、剪定を行う際は切り始める前に樹を観察し被害枝を見つけた場合は切り取るか「目印」をつけておき忘れずに治療しましょう。（病患部分の削り取りを行い、その跡に※トッジンMオイルペーストを塗布）
- ・剪定での切り口には、「その日のうちに」バッチレート塗布し傷口からの菌侵入を阻止しましょう。

※1（樹皮内部の深いところまで浸透するため、病患部と健全表皮を削り、塗布する）

※2 再発した場合は耐性菌が懸念されるため、フランクーツプレーや泥巻で治療する）

主要な試験データ



◆マメコバチ冷蔵保管について

- ・3月下旬にマメコバチの冷蔵保管を実施する予定です。
- ・昨年まで利用されていた方については、入庫案内文書が配布されますので詳細をご確認下さい。
- ・新規でご利用したい方は各支店営農係へご連絡ください。

< 中央地区営農係 >

- 藤崎支店 佐藤 琉乃介 (090-7529-5883)
鳴海 清志郎 (080-9335-0829)
神 幸人 (090-6220-9279)
- 和徳支店 佐藤 慎 (090-3753-6333)
泉 荘 (080-6011-5366)